

## 岩手山遭難(2011年9月)

20代男性、単独。ビーチサンダル、軽装で網張展望リフトを利用し登山開始。リフト係員に登山をやめるよう注意されるも岩手山へ。山頂付近で転倒し動けなくなり救助要請。捜索するも発見できず。8日目に発見されるも亡くなっていた。



## 解説

9月30日岩手山へ登山。9月の岩手山の山頂気温の平均は約8℃、10月は約2℃。ビーチサンダルにジャージ姿の軽装。食料も雨具も持っていない。リフト係員に登山を止めるように注意されるもそのまま岩手山へ。山頂近くで転倒し負傷。動けなくなり13:20警察に救助要請。捜索隊を結成し10月1日から捜索を開始するも、発見できない。10月5日谷底に男性を発見するも天候が悪く風が強いため近づくことができない。10月8日ようやくヘリに収容されるも亡くなっていた。

標高1,624mの岩手山。9月～10月の気温はかなり冷え込む。登山経験は不明だが、リフト係員の静止を振り切り登山をするとは…。若い時は何でもできる！と思える時期かもしれないが、山はそれを許してくれるほど甘くはない。ビーチサンダルでなければ転倒しても歩けたかもしれない？雨具や防寒着、ツェルト、食料を持っていれば低体温症にならずに助かったのかもしれない？

登山者への注意喚起はもちろんだが、軽い気持ちのハイカーにも山の危険を周知していかなければならない。